

映画鑑賞アンケートを用いた男女の満足度の異差に関する研究 Analysis of degree of satisfaction in a questionnaire based on sexuality

A-15 大貫 修平 原 一之 本村 陽一[†]

Shuhei ONUKI kazuyuki HARA
日本大学生産工学部

Yoichi MOTOMURA[†]
[†]産業技術総合研究所

Nihon University [†]National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

1 はじめに

本研究では、映画鑑賞データから男女別の満足度情報を取り出すことにより、映画を鑑賞する前に男性、女性がある映画を見る際に、その映画の自分に適合しているのかというものを判断できるシステムの構築が目的である。男女を区別する理由としては、男性と女性では、物事の捉え方に差があることに依る。

2 実験方法

2.1 映画鑑賞アンケート

本研究で取り扱う映画鑑賞アンケートはの映画鑑賞に関して 6483 人を対象に行われたアンケートであり、産業総合研究所が所有する。当アンケートは、「一次調査」(個人情報)と「二次調査」(感想)に分かれている。

2.2 実験方法

本研究では、SQLite[1][2]を用いて映画鑑賞アンケートを解析する。回答の「期待したとおりだった」は、良くも悪くもないと考え、回答を結果には含めない。データは二次調査を使い、映画のジャンル分けは行っていない。

3 実験結果

Fig. 1, 2 より男性に比べて女性の方が満足度が全体的に高いことがわかった。78~80(好奇心、知識)、86(非現実体験)、89(話題)、92(映画技術)は、男性の方が高い結果になると予想したが逆の結果となった。84(人生観)、95(泣く)は、予想通り女性の方が高い結果となった。(質問番号と質問内容は Table 1 を参照)

Table 1 Questions

76	興味のある出来事や状況について、情報を収集する
77	監督や脚本家が何を訴えたいか理解する
78	好奇心を満たす
79	知識を増やす
80	個人的な問題に対し、どうすればよいか、映画からヒントを得る
81	登場人物の仕事、ファッションなどを参考にする
82	自分が考えた映画のイメージと一致した気持ちになる
83	登場人物と自分自身とを照らし合わせて、自らの行いや考えを見つめなおす
84	自分とは違う境遇にある人々の生き方や考え方を理解する
85	映画に出てくる登場人物の一員になった気持ちになる
86	映画の中の仲間にいカップルや家族を観て、現実には味わえない感情を体験する
87	リーダーや父親、母親等、責任ある立場にある人の理想的な立ち振る舞いを学ぶ
88	家族や恋人、友人など、映画を一緒に観る人を楽しませる
89	観た映画を友人や家族などとの会話のネタにする
90	映画を観ている間、現実のわずらわしさを解放される
91	映画を観ながら、のんびりした時間を過ごす
92	監督の考えやシナリオ、俳優の演技、カメラワーク、音楽など、作品の良さを堪能する
93	映画を観て間を持たせる
94	笑う
95	泣く
96	手に汗握る
97	感動する
98	癒される
99	怖がる
100	スカッとする

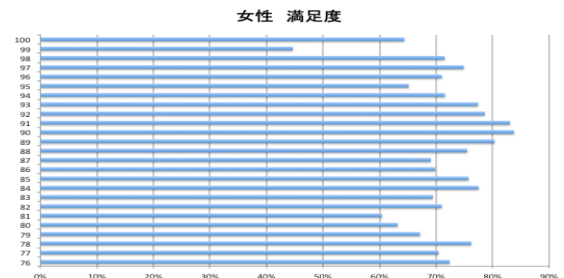


Fig.1 Satisfaction of women

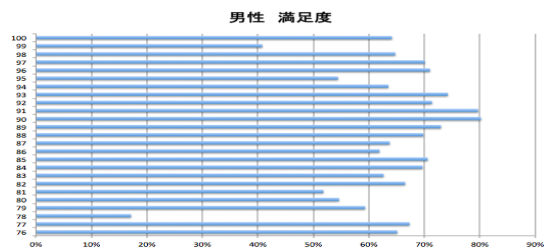


Fig.2 Satisfaction of men

今後は回答の「期待した通りだった」の取り扱いを検討する予定である。

参考文献

[1] 『SQLite』 D. Richard Hipp
<http://www.sqlite.org>

[2] 西沢直木 SQLite 入門 翔泳社 (2009)

[3] 『映画鑑賞アンケートの統計的性質の解析』
田中啓悟 日本大学生産工学部電気電子工学科卒業論文 (2014)